園章デザイン
人間国宝　田村耕一先生

菩提樹

第二十二号

発行者／学校法人　吞龍愛育会
吞竜幼稚園
栃木県佐野市大祝町2312
TEL　0283 (27) 0051
FAX　0283 (27) 0052
http://www.sctv.jp/~donryu-youchien/
E-mail ; donryu-youchien@sctv.jp
編集責任者／小　林　研　介
題字デザイン／武井宏允先生
印　刷　所／荒　畑　印　刷　所

園の意気込み、保育者の意気込み

吞竜幼稚園園長　小林研介

今年も仕事柄全国の幼稚園を訪れる機会がたくさんありました。

立川の藤幼稚園、いわきのほうとく幼稚園。愛媛、高松、広島、山形、宇都宮の幼稚園・保育園といろいろな園を観させていただくと本当に参考になることがたくさんあります。

幼児教育は「環境による教育」と言われ、園の建物も園庭の木々や飼っている動物もみな子ども達にとっての大事な教育的な刺激となっています。枝垂桜の古木や江戸時代の大仏さま、裏山の急斜面も金木犀（きんもくせい）の香りもが幼な子の五感をゆすぶり大脳を覚醒させてくれるのです。ですからその環境をどのように整えるか、いや創って行くかというところが幼稚園教育にとってものすごく大切なわけであり、いろいろな園を訪れ観せて頂くと、その園の教育観というかもっとストレートに言うと「意気込み」が伝わってきます。私は幼稚園には、とりわけ私立幼稚園にはこの「意気込み」というものがとても重要であると思います。

その意気込みは園環境のみならず子ども達がする活動の中にも現れてきます。それは保育者が単に子ども達に何かをさせているだけでなく、どのようなことを狙って、どのように経験させているかということを大事にしているというところであります。

絵を描くということをひとつ例に挙げますと、各自に自由画帳を与え、クレヨンで好きなものを描いている園はよく見られます。とりあえずうちの園では絵を描いています（描かせています）というわけです。しかし庭に大きな紙を貼りたっぷりの水彩絵の具で裸になり描かせる（時には水鉄砲で絵の具を噴射している）園はあまり見られません。はたまた砂浜や雪原で長い棒で思いっきり線を描こうなどという活動もめったにお目にかかりません。しかし仮にこうしたことをさせる人には絵画的な表現の前の段階として、先に上げたような「芸術は爆発だ」のような自由な自己表出の経験がその基盤として重要であるという教育的信念があるわけです。また、石垣の上に櫓（やぐら）あり、小さなクラスの子が年長児に憧れ必死になってよじ登るという環境の園を見たこともありますが、石垣とはまた古風だが、魅力的かつ挑戦的な遊具を用意したものとその意気込みに脱帽した覚えがあります。

今、さよならコンサートに向けて子ども達は、歌や合奏に親しんでいます。

吞竜幼稚園のたくさんの思い出が綴られた8番まである長い歌を歌うときに私が「たくさんのことを一つ一つ思い出しながら歌ってね」と言うと練習の時でありながら感極まって泣き出す子がいるのです。歌とはただ歌えばいいものではありません。元気を沸き起こす歌にはそなりの歌い方があるでしょうし、思い出の歌にはそれなりの心情を共にするべき心の持ち方が必要でしょう。リズムやメロディーの正確さを求めることも年齢によっては大切でしょうが、ここで子ども達の中に育てたい事は何であるのかを常に考えることが大切です。

もう一度言いますが、幼稚園教育とは子どもに何かをさせればいいだけのものではありません。うちの園では子ども達が絵を描いています。歌を歌っています。日光に行きました。綱引きしました。うさぎやアヒルを飼っています。じゃが芋植えましたとばかり並べたとしてもそれだけでは意味がないのではと思います。その活動をしていることに安直に満足するだけでなく、その中でこの子に何を育てたいのか。だとすれば何を用意してあげ、どんな言葉をかけるのか、他にも違うやり方はあるのではといった猛烈なる内省が子どもと共に生きる保育者には求められるのです。

そうした意味において意気込み溢れる園。そして意気込み溢れる保育者集団が今こそ望まれる時はないと考えています。

▲作品展にむけて

なかがわ水遊館▼

▶お誕生会

◀雪すべり
露天風呂にて

▶運動会の海賊船をつくったお父さん達

お母さんから

幼稚園での親子の思い出

ふじ　石居　信男

入園した頃は本当に大丈夫だろうかと不安な毎日でした。次々に遊び場をかえて何処にいるのかわからない娘でした。初めての父の日パーティーではダンスをしている姿に感動してしまいました。そんな娘が最後の運動会で、「速く走りたい」と言いだし私と練習をするようになりました。三年前は想像もしていなかった事です。行事を重ねるごとに娘の成長を感じられました。親子共々行事に参加でき思い出が作れました。

ふじ　末吉　順子

我が家の愛しい子供達が長年お世話になりました園での思い出は、やはり秋の大運動会です。準備は大変ですが、その中で多くのお母様方との交流を深める事が出来、当日は親子で、クラスで、園全体でめいっぱい楽しんで、笑って、時にはホロリとする場面もあり、呑竜に来たからこそ味わえる素晴らしい充実感に満たされます。私達家族に一生残る宝物をありがとうございました。

ふじ　渡辺　明美

幼稚園生活で一番楽しかった事はと匠に聞きました。すると『お友達といっぱい遊んだ事』という返事でした。入園前までは、みんなの輪に入いる事が苦手だった匠が今では、お友達と遊ぶ約束をしてきます。あっという間の三年間でしたが、子供達の成長には、おどろかされます。パイレーツオブ呑竜での、年長リレーは、みんなの一生懸命な姿に、涙なしでは見られませんでした。

ふじ　小林　正枝

我が家の一番の思い出は幼稚園生活最後の運動会。子供より親が緊張した選手宣誓。立派にやり遂げた姿に、始まったばかりだというのに思わず涙。リレーの練習では獲れなかった1位を、親子共に獲得し、また涙。運動会では大きな自信を得たように思います。

呑竜幼稚園での素敵な思い出は、家族にとって一生の宝物になりました。ありがとうございました。

ふじ　大門　紀子

送り迎えの時間の園の風景が心に残っています。「お迎え一番ね」三年間続いた別れの際の一言。一番に迎えに行っても帰りは最後。疲れて帰り道はだっこ。その時間の中で、今日一日の園での様子を知る事ができました。少しずつ挨拶の声もでるようになったり、自ら友達と遊べるようになったり。元気に走り回る姿をたくさんみられました。息子のたくさんの可能性を知る事もできました。先生方ありがとうございました。

ふじ　塩野目順子

息子と私のとっておきの思い出は、入園して一ヶ月後のことです。急に毎朝私から離れなくなったり、園では、ふと悲しくなってシクシク泣くというのです。聞くと「ママと一緒がイイ」と。そこで考え「ヒミツだよ」と言って名札の裏に私の写真を入れて登園させました。先生からの優しい声かけや、名札を見ては安心したりして、だんだんと園生活に慣れていくことができました。あれから三年、今もその名札は思い出として大切にしています。

ふじ　木村　早苗

年長時遠距離通園をした事が今となっては良い思い出です。年長を目前にして突然の主人の転勤。園長先生に親身に相談にのっていただいたのが昨日の事のように思い出されます。決めては息子に呑竜での年長の行事を体験させてやりたかった事です。おかげさまで息子は遠距離通園をいやがる事もなく、沢山の行事を通して親子で楽しみ、そして親子共々大事な仲間を得る事が出来ました。温かく見守って下さって皆様に感謝。

ふじ　柿沼　礼子

上の子の入園から早いもので七年が経ちました。あっという間の年月で、とうとう最後の卒園を迎えました。思い出といえば、父の日パーティ、運動会、遠足、生活発表会、作品展、さよならコンサート等、親子でふれあい、家とは違った子供を見せて頂き感謝しています。どの行事がよかったか甲乙付けがたく、それぞれの行事ごとに先生方の工夫、ご指導力に頭が下がる思いです。本当にありがとうございました。

ふじ　秋山　志帆

入園式の日、泣きながら私にしがみついて離れなかった遥香でしたが、たくさんの思い出とともに卒園の時を迎えることとなりました。運動会や生活発表会など色々な行事も毎年楽しみでした。年長の運動会の時、高い所は苦手なのに一生懸命平均台を渡りゴールした姿を見て、とても感動しました。この三年間は、私達親子にとって一生忘れられない大切な思い出です。本当にありがとうございました。

ふじ　亀山　敦子

思い起こせば三年前、不安で一杯のスタートでした。マイペースな息子の事では、何度も先生に相談させて頂きました。その度に園長先生始め、諸先生方の「大丈夫ですよ」との温かい言葉には、今でも感謝しています。そして、先生方の全力投球で子供に接して下さる姿は、自分の子育てにも、とても励みになりました。園生活で、沢山植えて頂いた種、どんな芽が出てくるのか楽しみに見守って行きたいと思います。

ふじ　恩田　秀美

卒園が間近に迫り、息子が必死にボールを追いかけ、仲間達と楽しそうにサッカーをしている姿を見て胸が熱くなります。入園当初は、「行きたくない」と泣く息子を強引にバスに乗せ、私は職場へ。席へ戻ると、幼稚園からの電話のメモ。外に出てこっそりかけなおしていた日々が、昨日の事の様です。良き友達、先生方に支えられ、息子はたくましく成長する事が出来ました。呑竜幼稚園の数々の思い出は、親子の宝物です。

ふじ　関　恵子

三年間の園生活、様々の行事の思い出と共に、娘と朝のバスの迎えを待つ時間が楽しみでもありました。季節を感じたり、迎えの遅いバスにソワソワしたり、休んだ友達の心配をしたりと、いろいろ思い出します。仕度に時間がかかり、注意をした朝も多々ありましたが、バスが来るとニコニコと乗っていく姿になんだか一安心。三年間一度も「行きたくない！」と言わせなかった呑竜幼稚園に感謝しています。

ふじ　小林　恵理

パパ「ずっとこのまま呑竜幼稚園にいて欲しいな」娘「うん。ずーと幼稚園にいるよ」そんな二人のやりとりを微笑ましく見ている私。本当に幸せな三年間でした。たくさんの思い出を振り返ると、いつでもそこには暖かい感動の涙がありました。先生方の深い愛情に包まれて立派に成長する事ができました。ありがとう呑竜幼稚園！「庭のシャベルが♪」とあの歌を口ずさむ度、皆で楽しく過ごした時間を思い出し号泣したいと思います。

ふじ　栗島恵美子

三年前の入園式の日から、何かあるたび、幼稚園に行きたくないと親を困らせていた息子が、運動会でのたくましい姿や、生活発表会でのはきはきとした姿など、園でのたくさんの行事の中で驚くほどの成長をしてくれました。そして、親子共々、沢山のすばらしい思い出が出来ました。園長先生を始め、先生方の愛情あふれる指導に感謝し、三年間大変お世話になりました。呑竜幼稚園ありがとう。すばらしい園でした。

ゆり　蝶野　英子

入園当初から、涙いっぱいの姿が多かった息子。年少の時の生活発表会では、舞台できちんとできるのか心配でした。「ジャンプの得意なりすの稜太郎です！」私の心配を一気に吹き飛ばし、こんな一面もあったのかと驚いた瞬間でした。大きな成長とたくさんの笑顔を見せてくれるようになった息子。子供の様子や性格をよく見て先生達全員で育ててくれる愛情いっぱいの三年間をありがとうございました。

ゆり　竹石　美砂

人一倍悔しがりの息子は、運動会のリレーで優勝できず、泣きながらのゴール。私も涙・涙でした。また縄跳びが跳べず、登園拒否!?公園で秘密特訓してから登園した日もありました。朝、いつもと様子が違うとすぐに気付いて温かい言葉を掛けて下さる先生方、ありがとうございました。沢山のお達との思い出とともに心も体も私も呑竜幼稚園で成長することができました。

ゆり　川村　幸代

「親も子も楽しい幼稚園」送り迎えをする我が家にとって手を繋ぎ、呑竜幼稚園に通った三年間こそが素敵な思い出です。先日、娘がこんな事を口にしました。「早く小学生になりたいけど卒園はしたくない」一見わけのわからないこの言葉が、すごく重みのある一言だったのだと気付いたのは後になってからでした。娘をこんな気持ちにさせてくれた呑竜幼稚園、本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

ゆり　秋山　理枝

「幼稚園で何が楽しかった？」と聞くと、目を輝かせながら、両手で足りない位、色々な遊びや行事のことが出てきました。沢山の友達、そして豊かな経験や環境を与えて下さった先生のお陰です。幼稚園で培った物は、これから成長する上での大事な栄養素。しっかりと大地に根のある素敵な花を咲かせることが出来ると思います。娘の成長が楽しみです。子供がいる喜びと幸せを大いに感じることが出来た園生活でした。

呑竜幼稚園のここが好き

ふじ　中尾　香理

息子は年中からの入園でした。転居に伴う園探しのさなか、見学に行くと、まず園舎の楽しさに「ここにする！」と息子の声。園長先生や先生方のお話しと対応に「ここなら大丈夫」と思ったものでした。呑竜幼稚園には親子で楽しめる行事が多く、そのどれもが個性的で、特出していると感じます。日常の保育でも、体験を大切にしている姿勢に共感が持てました。親子共に、とても楽しい二年間をありがとうございました。

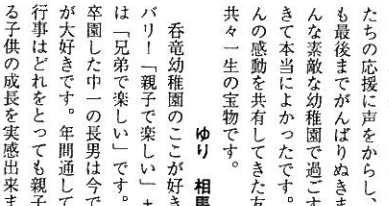
ふじ　岩永　悦子

二回目の卒園を控え、これで園生活も終ってしまうのかと思うと残念な気持ちと、六年間園で過ごした充実した日々を思い出します。行事ごとに子供たちだけでなく親同士の絆も深まり私にとってもかけがえのないものとなりました。私の今の夢は二人の息子が結婚し、子供が生まれたら呑竜に通わせて、呑竜生活を楽しもうと密かに企んでいますが本当は私自身が子供になって通いたいなと思わせてくれるそんな園です。

ふじ　有澤　佳代

「おとちゃん、この幼稚園に行きたい！楽しそう！」二年前佐野に転居が決まり見学に来た時の娘の言葉です。確かに、みんな元気でのびのびしていて楽しそう！しかも「親も楽しめる幼稚園」なんて魅力的な幼稚園なのかしら！そして娘は自分の直感通り毎日楽しく園に通い、様々な新しい経験をし身も心ものびのび成長しました。私も沢山の行事に参加し親子で一緒に楽しむ事の素晴らしさを教えていただきました。

呑竜のお父さん



ふじ　磯部真理子

ラボを通して導かれた呑竜幼稚園。なんだかずっと前から通っていたような心地よさの中で、一年過ごす事ができました。先生やお母様方そして園児達のあったかくてキラキラしたまなざしとやる気一が大好きです。デコボコなジャガイモを丸く育てるのではなく、どう芽を出すか？どんな花を咲かせるのか？子供の成長する力を信じて見守って下さる環境がありました。私も子供と一緒に新芽を出したくなってきました。感謝です。

ふじ　中島かずみ

「この場所でたくさんの思い出が生まれたよ」ここに「この場所」を聖地としている人物がいる。ウチのパパだ。「園にいるだけで嬉しいんだよ」フッと呟いた一言に「娘達よりも園が好きなのかも」…と。園行事となると我を忘れて突き進み、進み過ぎて娘達と私に叱られ…。卒園後彼の「愛園精神」の炎は燻ってしまうのだろうか。「この場所」が大好きな彼が「基地を買ってくれ」といつ言い出すかしらと妻は気になっている。

ふじ　野城　紀子

呑竜幼稚園では親も子も一生懸命なところが大好きです。どんな行事でも親子の熱い思いが伝わり感動します。特に運動会では、一つのテーマに向かいクラス一丸となって取り組み、本番では親は子供たちの応援に声をからし、子供たちも最後までがんばりぬきました。そんな素敵な幼稚園で過ごすことができて本当によかったです。又たくさんの感動を共有してきた友達は親子共々一生の宝物です。

ゆり　相馬　和枝

呑竜幼稚園のここが好きそれはズバリ！「親子で楽しい」＋我が家では「兄弟で楽しい」です。七年前に卒園した中一の長男は今でも幼稚園が大好きです。年間通しての様々な行事はどれをとっても親子で楽しめる子供の成長を実感出来ます。その度に虹輝は？虹太郎は？と盛り上っています。呑竜と言う名の宝箱には私達親子そして兄弟の思い出がたくさん詰まっています。園長先生諸先生方六年間ありがとうございました。〝呑竜最高〟。

ゆり　亀田　真澄

呑竜幼稚園の子供達は、すばらしい環境の中で育っています。ツリーハウスに上ると、涼やかにそよぐ樫の葉。滑り台を勢いよく降りたら、次は海賊船に乗り込み、ヒラヒラとはためく海賊旗を眺めて…。果てしなく冒険は続きます。園舎の暖炉の前では、ステンドグラスの美しい光を見つめ、秘密の洞窟にそっと息をひそめ隠れる…。すべてのものが、子供達の感覚を刺激し、感性に響いていると思います。そして、すてきな思い出となり心に残るでしょう。

ゆり　久住　裕巳

自ら「この幼稚園に来たい」と言った二歳九ヶ月だった我子。何を感じて呑竜を選んだのかが入園後、すぐに分かりました。子供に考えさせ、協力し、行動することによって得られる達成感や満足感を十二分に与えてくださる先生方。一人一人が主役になれる園での生活がとても楽しい!!子供のキラキラした目を見ると親も楽しい!!楽しい空気が満ちている。それが答えだったのですね。楽しさと幸せを園から沢山いただきました。

ゆり　本島　寿栄

入園以来、一度も「幼稚園には行きたくない！」と言わずに、通ってくれた事はとても嬉しく思っています。それだけ楽しかったのでしょう！子供はもちろん親も一緒に参加して物を創り、心に潤いを与えて頂きました。子供だからといって妥協せず真剣にダイナミックなご指導は受け継いでいきたいと思っています。息子の夢は「まぐろ漁師」。呑竜に来なければ思いつきもしなかったと思います。園の精神を大切にしたいです。

ゆり　浅野　尚美

リレーのアンカーに選ばれた、恥ずかしがり屋の息子。プレッシャーで当日欠席しそう。先生に相談。すると「大丈夫です。走れます。」と自信満々、笑顔で返答。先生は息子を信じている。〝信は力なり〟当日、見事走り抜きました。運動会後から、息子は自信が付いたのか、とてもたくましくなりました。信じる力が、一回り大きく成長させてくれたのだと感じました。信じてくれてありがとう！大好き、呑竜幼稚園!!

ゆり　神林　佳子

入園式当日の君、そして呑園の君。思い出が微笑んでいるようです。三年間多くの体験をし、感受性に刺激を受け、善悪の見分け方、反省と感謝を表現する事の大切さを知る事ができたのも呑竜に出会えたおかげと感謝しております。人生の基礎となる大事な幼少期を、すばらしい先生達と過ごせた事は晴斗にとって、幸せだったと思うと共に、親も大満足の幼稚園生活でした。有難うございました。

ゆり　鈴木　恭子

幼稚園三年間で、たくさんの行事に参加しました。父の日、夏祭り、運動会、誕生会等々、ただ見に行くのではなく、積極的に参加することで、子供と「園行事」という貴重な体験を共有することができました。親が楽しんでいるのを見ると、子供も楽しくなってくるのですね。これからも、その気持ちを持ち続けたいと思います。そして、そんな機会をたくさん創ってくださった呑竜幼稚園に、心から感謝します。

ゆり　戸川貴美子

レンガ造りの中庭に心惹かれて、まだ小さかった弟の方を連れ、初めて呑竜幼稚園に見学に訪れた際、園内を案内して下さった先生の腕に抱かれスヤスヤと眠ってしまった我が子の姿を見て、光があふれ心地良い雰囲気の園舎と先生のいる園なら子供を安心してあずける事ができると、即入園を決めました。あれから三年が経ち、手術を受け入退院をくり返していた颯介も、ほとんど休む事なく楽しく元気に登園でき、私の直感は大正解！本当にありがとうございました。

ゆり　関口理恵子

娘の誕生日の朝の事です。親子でいつものようにバスを待っているとドアが開くなりなんと、先生とお友達からハッピーバースディの歌のプレゼント!!園でもクラスで先生からお祝いしていただけるのは知っていましたが、バスでもなんて…!!サプライズに私と娘は大感激！寒く冷たい風吹く二月の朝、ふんわりと心が温かになりました。些細な事ですが、そんなさりげない心遣いが少人数ならではの良さだなぁと思いました。

ゆり　井上　智子

我が家の玄関に青い陶器の皿が飾ってある。つい先日、小さな茶色の皿も加わった。青い皿は長男が、本人曰く鴨皿だと。友岐先生のアイデアで〝ねぎスプーン〟も付いている。茶色の皿は娘の作品。女の子らしく、ハートや星の模様がたくさん。我が家に来る友人（特に他園卒の）親子は一様に〝すごい本格的〟と感心する。そう、本格的なの。幼稚園児でも本格的な、手を抜いたりしない、そんな呑竜幼稚園ってすごい！

ゆり　須藤　富子

「あの幼稚園に行きたい…。」彩、三歳。人生初の決断――。そこから始まった呑竜生活。それは想像をはるかに超えた楽しいものでした。聞きしに勝る呑竜マジック！気が付けばすっかり親子で夢中になっていました。幼児期の大切な礎をこんなにも素敵な環境の中で築いた娘は幸せだと思います。親子共々成長させてくれた三年間に心から感謝いたします。

ゆり　大森江美子

園長先生の言葉で「親も楽しい幼稚園」とありますが、三年間を振り返りその事を実感しています。たくさんの行事に参加し、一緒に泣いたり笑ったり。一生懸命取り組む姿はどんな時もキラキラと輝いていました。子供の笑顔を見ていると、親は幸せな気持ちになります。日々成長していくこの時期にこの幼稚園で過ごす事が出来て、とてもうれしく思います。そんな気持ちにさせてくれた呑竜幼稚園が子供も私も大好きです。

私の子育て自慢話

ふじ　加藤　光宏

パパのところへ来てくれてありがとう。とよく子供達に言います。これは私自身への奮起の言葉でもあります。ある子育ての本によりますと親は子供の失敗をとがめるが、子供は親の失敗をとがめることなく許しているそうです。親に対する信頼がなせる術でしょう。そのような寛大な人たち《うちは二人ですので》に親の位をもらったのです。感謝いっぱいの気持ちになってしまうのです。

ふじ　大谷　京子

我が家では、日頃から「お米は一粒も残さずきれいに食べる」と教えています。小さい頃から言い続けているからかごちそう様をした後のお茶碗はいつもピカピカです！もう一つは「人の痛みがわかる人になりなさい」家は一人娘なので将来、周りには沢山の友達がいる！自分をしっかり持ち、良い事悪い事の判断がきちんと！そんな大人になっていってほしいと願い育てています。今は素直で優しい子に育ってくれてると思います。

ゆり　沖舘久美子

沖舘家　家訓

①早寝、早起き（武蔵が一番得意）
②ごはんはしっかり食べる
③泣けるほど、笑え
④自分の周りにいる人を大切にしろ
⑤時には自分の可能性を信じて突っ走れ

時々怒りんぼな父と母ですが、武蔵を愛する気持ちは世界一です。これからのも変わらない心で、ずっとそばにいる事を誓います。卒園おめでとう。

ゆり　久保田尚子

娘との思い出を増し、ふと気づく。私には私自身の園の思い出があり、笑叶もまた同じでしょう。幼稚園は子供が楽しんでいる姿をみて親も楽しいと思う場所と思っていましたがちょっと違う。呑竜は親だって信頼でき尊敬できる友達を見つけられる場所。私自身が楽しんでいる姿、一生懸命な姿をたくさん娘に見せることができました。それが私の子育て自慢だと思います。呑竜に通えて幸せでした。そして、お世話になりました。

ゆり　小笠原礼子

息子、娘と五年間、園から帰ってくるとその日の出来事を色々と話をしてくれています。主人は、帰宅時間が遅くその話を聞く事が出来ないのを残念がっていました。そこで入園するとパパとの交換日記を始めました。友達の事、ママに叱られた事兄弟喧嘩など、夕食後二人の子供は書いています。そして夜遅くのパパの返事。その返事を読む子供達。今までのたくさんの日記帳。これからも増えるだろう日記帳は宝物です。

呑竜幼稚園の先生

保護者会会長　井上智子

六年間の〝我が家の呑竜ライフ〟も終わろうとしております。なぜ私達夫婦が呑竜幼稚園を選んだか？それはひと言。〝先生方の魅力〟です。

初めて経験する我が子の幼稚園選び。とても悩みました。同じ様な思い出をお持ちの方は多いと思います。いくつかの園の説明会に参加し、悩む。それを繰り返しました。そして迎えた呑竜の説明会。まず他と違ったのは園長先生。「園のセールスポイント」を話す園長先生が多い中、研介先生は「子供に望ましい環境は」というテーマでお話下さいました。久し振りに学校の講義を受けた様で、新鮮な印象でした。

そして当時の佳代子先生をはじめとした先生方。確かにどの園の先生も明るく、ハキハキとした方達でしたが、呑竜の先生はそれだけではありませんでした。落ち着いて保護者の話を聞いてくれる、安心感がありました。子供のみならず、親の気持ちもきちんと、正面から受け止めようとする姿勢の様なものを感じました。それは、今、園にいらっしゃる先生方まで、きちんと受け継がれている、そう感じるのは私だけではないと思います。

こんな素晴らしい先生方と出会い、密度の濃い幼稚園生活を送る事が出来た我が子たちは幸せです。必ずや、これからの人生の糧となると信じております。運動会、生活発表会、作品展、どれを見ても、子供の意見を尊重し作り上げた、上質な内容でした。

卒園の時を迎え、充実した園生活を送れた事、先生方に感謝しております。

また、最後になりましたが、保護者会活動の中、たくさんの皆さんと知り合えた事、私自身の大きな収穫でした。温かい御協力、御理解に支えられ、楽しく行事や活動を作り上げる事が出来ました。本当にありがとうございました。

宝物沢山頂いた十年間

主任教諭　大貫佳代子

この十年間本当に素敵な経験を沢山させて頂きました。実際教師になるまでは昔担任した子どもの事を忘れてしまうかと心配していました。そして十年経った今、初めて担任した子ども達は来年高校生になります。そんな子ども達の名前はもちろん、その子のエピソードなどと共に保護者の皆さんの事も浮かんでくるのです。とにかく新米の頃は失敗の連続で、始めて行った家庭訪問で「先生緊張しないで大丈夫ですよ」とお母様に励まされた事。卒園式で大泣きし、コンタクトを片目無くしたまま名前を読み上げた事もありました。妖精になり「秋葉原でバイト出来ますよ」と励まされ!?ながら楽しんだ運動会。普段は穿かないスカート姿の私に「幼稚園で一番かわいい！」と全員で大絶賛してくれた今のさくら組の子ども達。私に見せてくれた沢山の笑顔や温かい言葉、思い出は忘れられない宝物となりました。この十年、子ども達には『教える』というより、多くの事を『教えてもらった』ように感じます。腹の底から笑う事、真剣に怒る事、心から泣く事。人として感情を表に出し、相手に伝わる大切さを学びました。又、砂遊びや鬼ごっこの楽しさは子ども達と一緒に遊んで初めて分かったようにも思えます。私は『遊び』の楽しさを知ってしまったからこそ、ついつい子ども達以上に真剣に走り回ったり、砂だらけになりながら砂場で遊んでいたりしてしまいました（ちょくちょくお母様は私がいる事に気づかれませんでしたが…。）幸運にも幼稚園教諭になる事によって楽しい経験を沢山する事が出来、そんな私をいつでも温かく見守って下さった皆さんがいるからこそ今まで頑張って来れました。本当にありがとうございました。これからまた新米主婦として一からスタートです。皆さんのように子どもの為に一生懸命になれる家庭を築いていきたいと思います。長い間本当にありがとうございました。

忘れないたんぽぽ組

教諭　飯塚美智

呑竜幼稚園で過ごした一年間。たくさんの行事を通し、『たんぽぽ組』の子どもたちが一つ一つ成長していく姿を日々実感してきました。友達と協力すること、助け合うこと、自分で考えること、時には人に頼ること、友達だけではなく動植物をを大切にすること…まだまだ他にもありますが、みんな一緒に経験し分かち合ってきました。そして、想い出が出来ました。私が一番想い出深いのは『運動会』です。ダンスも障害走も綱引きもどれも一生懸命だったことを昨日のように覚えています。降園ギリギリにも関わらず、ダンスを練習したり、障害走をやらない日には「えー!!」とブーイングされたり、どうしたらさくら組に勝てるか作戦会議をしてみたり、必死の中にも楽しさがありました。当日お母様方から「ダンス良かったです」と言われ、負けっ放しだっ綱引きも全勝。思い思いに頑張った障害走。「ごほうびにおもちゃ買ってもらった」なんて声も聞きました。でも、もうそんな会話を子どもたちと出来ないんだなぁと思うと寂しさでいっぱいです。『一期一会』、たんぽぽ組のみんな、また保護者の皆様との出会いはまさにこの言葉に尽きます。人生八十年の中で、あっという間の一年間。しかし、私の記憶の中に鮮明に残る一年となりました。素敵な思い出をありがとう。年長になったら、年少・中のお世話頼んだよ。そして、いつまでも、笑顔を忘れないでみんなで居て下さい。

呑竜幼稚園で過ごした一年間

教諭　小野愛未

4月。期待と不安を抱えながら入園式の日を迎えました。子ども達と同様、私も新しい環境でのスタートだったからです。

幼稚園の先生として初めて出会った16人の子ども達。みんなと過ごした一年間はとても楽しく早いものでした。「おはよう！」と言いながら胸に飛び込んできてくれたり私がバスから帰ってきたのを見つけ「先生おかえり！」と手を振ってくれました。「先生あのね…」と家であった事や好きなアニメの話を聞かせてくれたり、「ヤギごっこしたい！」「かくれんぼしよう！」「お母さんごっこしよう！」と沢山の遊びをして楽しみました。父の日パーティや運動会、生活発表会やコンサートなど大きな行事はもちろん、普段の何げない生活の中にある他愛もない子ども達との関わりそんな成長を傍で見守れた事を誇りに思うと同時に子ども達のますますの成長を祈っています。

うさぎ組の子ども達、一年間先生として慕ってくれて本当にありがとう。これからもみんなで仲良く楽しい幼稚園生活を送って下さい。そして一年間沢山のご協力をして下さった保護者の皆様、本当にありがとうございました。

卒園生からJリーガー誕生！

J2　湘南ベルマーレに
38回卒園生の　小林竜樹選手(MF)が
今春入団しました。
今後の活躍を期待しましょう!!

■背番号　23
■ポジション　ミッドフィルダー
■生年月日　1985年5月5日生まれ
■身長/体重/血液型　162cm/56kg/O型
■利き足/足のサイズ　右/24.5cm
■経　歴
・呑竜幼稚園（呑竜FC）1期生
・城東中学校
・前橋育英高校
　高校選手権出場
　国体準優勝
・駒沢大学
　大学選手権優勝
　ユニバーシアード日本代表

編集後記

昨年より文部科学省の「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究協力者会議」という大変長い名前の会に委員として参加しています。

この会は幼児の体力や運動技能の低下が叫ばれる中、その実態を全国規模で調査し、もしそうならどのような形で回復するかということを検討する会議です。

実は上記の卒園生のサッカー選手は私の長男でして当然今、普通の成人より体力・サッカーに必要な運動技能では秀でているわけですが、彼の幼児期の運動的な環境はと言いますと、正に放牧状態でありました。2歳前から一人で遊びに出かけた園庭には幼児向けの遊具があり、遊びのモデルがいて、安全に関しては先生達の程よい目もあったのです。こうした環境は今の日本社会では稀でしょうが、目指すところであるはずです。子どもの育つ環境を見直す必要と大人の過保護過ぎない意識も再考する時のようです。

編集責任者
小林研介